

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>東京書籍（新編 新しい国語）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活で国語を「正確に理解」し「適切に表現」することを念頭におき、各単元で習得すべき知識及び技能が示されている。 ・ 「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の学習を通して思考力、判断力、表現力等を育成する教材が配列されている。 ・ 生徒の言葉への興味・関心を喚起する多様な言語活動が位置付けられていて、主体的に学びに向かう工夫がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 「言葉の力」として育成する資質・能力が明示されていて、学年が進み、単元を重ねていく中で学習が発展的になるよう配慮がなされている。 (2) 登場するキャラクターのジェンダーやルーツが多様に描かれていたり、現行教科書との比較において、著者の男女比が女性著者で1割ほど増え、多様な考え方に配慮がなされたりしている。 (3) 問題解決的な言語活動が多く、生徒同士が助言したり議論したりして考えを深め、互いの考えを生かして結論をまとめるなど協働的に学びを充実させられるよう工夫がなされている。 (4) 本文には、小学校の教科書体の筆遣いや字形に近付けた特別な明朝体を使用し、脚注欄などの小さい文字の振り仮名にはゴシック体を使用するなど、発達段階に応じた配慮がなされている。 (5) 未習漢字だけでなく、小学校で学習していない漢字には全て、教材の初出箇所にふりがなを付けており、外国籍等の漢字を不得意とする生徒への配慮がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 系統立てて設定された「言葉の力」に適した教材や言語活動が位置付いていて、段階的に指導できるよう単元が配列されている。 (2) 「学びを支える言葉の力」の補助資料により、3領域の学習を支える基礎力を習得し、前後の教材で活用できるよう知識及び技能の習得に向けた配列において工夫がなされている。 (3) 全ての領域において、学習の見通しと振り返りの過程を重視し、何に注目して学び、振り返るのかを生徒目線で示してあることで、主体的に学習に取り組めるよう配慮がなされている。 (4) 「読むこと」の領域における「広がる言葉」では、作品中の表現と関連する言葉を学ぶことを通して、語感を磨き、語彙を豊かにできるよう工夫がなされている。 (5) 「文法の窓」では、言葉による説明だけでなく成り立ちを図式化し、イメージを広げ理解しやすくなるよう工夫がなされている。 (6) 単元末の「振り返る」において、「言葉の力」を箇条書きと図解で簡潔に示し、視覚的に理解を助ける工夫がなされ、全ての生徒が学びやすいよう配慮がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「未来を考えるための九つのテーマ」を明示し、3領域の学習を通して多様なテーマの認識を深められる教材となっている。 ・ 個別最適な学びの充実に向け、つまずきや学習の広がりに対応した場所に二次元コードの配置の工夫がなされている。

<div style="text-align: right;">発行者名</div> <div style="text-align: left;">採択基準</div>	<div style="text-align: center;">三省堂（『現代の国語』）</div>
1 教科の目標からの配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文字、音声言語それぞれの分野、形態を網羅した教材配列がなされ、特に「読むこと」と「書くこと」の連続性が意識されている。 ・ 学習過程、読み方、思考の方法を視覚的に示し、様々な読みの方略が実感をもって積み重なり、課題解決に向けた力が育成される。 ・ 多様な言語活動が設定され、対話を中心として思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫がなされている。
2 生徒の学習活動への配慮 ○内容の程度 ○学習活動への誘意性 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 徐々に文章の抽象度が高まっていく構成となっており、統一された「思考の方法」が全ての学年の始めに示され、「読み方」やその活用方法も段階的に設定されている。 (2) 幅広い時代、ジャンルの作品が取り上げられているほか、全学年で現代的な課題を題材とした教材、他教科とのつながりのある教材が配置され、主体的な学びが喚起されるよう配慮がなされている。 (3) 生徒相互の対話を促したり、「読み方」と連動して対話を促進したり、主体的に取り組める多彩な言語活動が各教材で示されたりするほか、対話そのものを主体的に行える題材も見られる。 (4) 明朝体・ゴシック体・教科書体が本文・見出し・新出漢字で使い分けられており、色使いに文字や情報が識別しやすい配慮がなされている。 (5) 教科書上段は本文、下段は言語に関する情報を掲載するなど、理解しやすいように整理されているほか、学習内容に関する二次元コードが掲載され個別最適な学びを保障している。
3 学習指導への配慮 ○単元・題材の配列 ○内容の扱い <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価 </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 全学年において、同じ時期に同じ領域の学習をすることで学習の積み上げを感じられるよう配慮がなされている。 (2) 全学年において、「読むこと」と「書くこと」の学習が関連付けられた単元があり、学習した内容を次に生かせるような教材の配置がなされている。 (3) 各教材において、生徒相互の対話や考えの共有など協働的な言語活動の場を設けることで、学習意欲が高まるような工夫がなされている。 (4) 各教材の学習過程の例示に、「思考の方法」と「語彙を豊かに」という補助資料が設定され、「知識及び技能」と各領域が関連付けられるよう工夫がなされている。 (5) 「思考の方法」や「読み方」が示され、国語で扱われる用語や方略を図解で示し、具体的にわかるよう工夫がなされている。 (6) 単元冒頭に「目標」を、末尾には「振り返りのキーワード」を明記することで、生徒が自ら学習を振り返ることができるように配慮がなされている。
4 全体的な特色	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各学年で「読み方」が段階的に示され、学びの活用場面が設定されることで、実感を伴って力が高まる構成になっている。 ・ 学習者相互の対話を促す言語活動が随所に取り入れられ、対話を中心に学習が進められるよう工夫がなされている。

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>教育出版（伝え合う言葉 中学国語）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の機能や働きについて知り、言葉を豊かにしながら、生きて働く「言葉」の習得ができるよう工夫がなされている。 ・ 内容を捉え、深め、考えを伝え合う学び方が示され、自己や他者との対話を通して考えを深められる工夫がなされている。 ・ 「学びナビ」「みちしるべ」「振り返り」等の学習の流れが明示され、生徒の実態に応じて主体的に学ぶ工夫がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各領域の教材が偏りなく配列されていて、1学年から3学年へと螺旋的に難易度を上げながら「習得」と「活用」を反復して押さえていくように設定されている。 (2) 自分自身について考えたり、人としての生き方について学んだりする教材から、SDGsを踏まえた現代的な課題に関わる教材まで、多種多様な教材が各学年、バランスよく配列されている。 (3) 「話すこと・聞くこと」「書くこと」教材の学習活動や、「読むこと」教材の「みちしるべ」等で生徒の交流活動が設けられ、主体的・対話的な学びに導かれるよう工夫がなされている。 (4) ユニバーサルデザインに対応した書体や、デジタル機器で表示した際の視認性が向上した書体を採用し、漢字学習や「書くこと」の習熟に配慮がなされている。 (5) さし絵や図版・写真は、文章の理解を助ける資料性の高いものや活動の手順や留意点を明確に示すものなど、学習上必要なものが効果的に取り上げられている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 各教材の目標が「学びナビ」で示され、3年間を通して系統的・段階的に学習が進められるように構成されている。 (2) 学年内での系統や学年をまたいだ系統を大切に螺旋的、反復的な単元構成が意図されており、関連性や連続性が有効に図られている。 (3) 各教材で、「目標」や「道しるべ」が明示され、生徒が主体性を持ちながら、言語活動を通して互いに伝え合うことを目的にした課題が示されている。 (4) 各教材に「知識及び技能」の指導事項が設定され、言語や情報の扱い方や、各領域で学ぶべき知識及び技能が身に付くように構成されている。 (5) 各単元、分野において、生徒の理解を助ける資料性の高いさし絵や写真、図表が取り上げられている。 (6) 教材ごとに、3観点における「振り返り」が明示され、学習目標に応じた、次の学びにつながる振り返りができるよう配慮がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元冒頭の「学びナビ」で、身に付けたい力や学習活動の重点が明示され、生徒が見通しをもち主体的に学べる。 ・ 全学年、SDGsや情報・メディア教材が設けられ、日常生活や他教科とのつながりを考えて学習が進められる。

<p style="text-align: center;">発行者名</p> <p>採択基準</p>	<p>光村図書（国語）</p>
<p>1 教科の目標からの配慮</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会生活に必要な国語の特質を理解し、実際に主体的に活用できる知識及び技能として習得できるよう工夫がなされている。 ・ 互いに伝え合う力や、論理的に思考し想像する力を高め、思考力、判断力、表現力等を育成できるよう配慮がなされている。 ・ 我が国の言語文化や国語を尊重して、その能力の向上を図る態度を養えるよう工夫がなされている。
<p>2 生徒の学習活動への配慮</p> <p>○内容の程度</p> <p>○学習活動への誘意性</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>本文、見出し、設問、提示文等の表現、さし絵、写真、図表、配色、フォント、コントラスト、レイアウト等</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 教材は、生徒の発達段階に応じて各領域が特定の時期に偏ることのないよう段階的かつ系統的に配置され、軽重をつける等、バランスの工夫がなされている。 (2) 1学年で身近な題材を学び、3学年で生き方や社会に関わる題材を学ぶ等、生徒の言語環境と発達段階に応じて、幅広い分野から題材を求め、学習意欲が喚起されるよう工夫がなされている。 (3) 生徒の日常生活に関連したり、知的好奇心を喚起したりするような言語活動が設定されており、主体的・対話的な学びが促されるよう工夫がなされている。 (4) ユニバーサルデザインフォントが用いられたり、生徒の発達段階を考慮して、学年が上がると字間や行間を狭めたりする等、読みやすいよう工夫がなされている。 (5) 「学びへの扉」「学びのカギ」では学習の流れやポイントが示される等、見通しをもてるよう工夫がなされ、図表は色に頼ることなく作成され、色覚特性への配慮がなされている。
<p>3 学習指導への配慮</p> <p>○単元・題材の配列</p> <p>○内容の扱い</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>「知識及び技能の習得」のための工夫、「思考力、判断力、表現力等の育成」のための工夫、「学びに向かう力、人間性等の涵養」のための工夫、関連性・連続性、個に応じた学習、他者との協働、まとめと評価</p> </div>	<ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒の発達の段階や習熟の過程を考慮し、段階的かつ系統的に学習ができるように構成されている。 (2) 全領域に「学びのカギ」が示されており、育成すべき資質・能力を、領域を超えて活用できるよう、単元相互の関連性や連続性が有効に図られている。 (3) 「言葉による見方・考え方」を働かせて表現をするとともに、それについて意見や感想を伝えたり述べたりして、相互に関わり合う活動が示されている。 (4) 「語彙ブック」「思考のレッスン」「情報処理のレッスン」等知識及び技能に関する資料を用いて、3領域の学習と関連付け、段階的・系統的に学習できるよう工夫がなされている。 (5) 巻頭・巻末や教材中にさし絵や写真、図・グラフ等が掲げられ、目的に応じて効果的に活用できるよう配慮がなされている。 (6) 「振り返る」が本教材のあとに設けられ、評価の観点が明確になるとともに、自らの学びを言語化して振り返ることができるよう工夫がなされている。
<p>4 全体的な特色</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科等横断的に取り扱える題材や、SDGsと関連する教材が選定されている。 ・ 「学びへの扉」により、活動を見通し対話的に考えを深め、資質・能力を育むことができるよう工夫がなされている。